

磁石の花

世界一強力と称せられる磁石で、10cm 角の巨大なものを使用した展示装置です。この磁石は病院での MRI (核磁気共鳴断層撮影) などに使用されるもので、しばしばサイエンスショーにも登場し大人気です。しかし、取扱店の磁石工房さんは「これは非常に危険 (最大吸着力 650kg) なので、磁石の取扱いに専門的な知識が有る人が責任を持って管理して頂く条件が確認出来ない場合はお出し出来ません。」と言います。じっさい、科学館では次のようなことがありました。手を挟んで大きな血豆を作る、カメラや腕時計が吸着されて壊れる、塗装のはげた箇所を補修しようとペンキの入った缶を持って近づいたら、その缶が磁石の方へ飛んで行って、あたりがペンキだらけ、など。とても危険なのです。

それでも触りたいというみなさんの強い要望にお応えして製作したのがこの展示装置です。強力磁石が中央にあり、自由に回転させることができます。その回転に応じて、周囲にある色とりどりのビニールタイ (色つきビニールでコーティングされた針金) が生き物のように動きます。リオのカーニバルと呼ばれることもあります。磁石が生み出す磁場が躍動的で感動もの、老若男女を問わず大好評です。



斎藤吉彦・科学館学芸員

先月号の表紙絵は 2008 年ノーベル賞を受賞された南部陽一郎先生がお描きになったものでした。タイトルは「BrokenSSB」SSB は Spontaneously Symmetry Breaking (自発的対称性の破れ) の略ですので、あえて訳すと「破れた『自発的対称性の破れ』」でしょう。方位磁石群の SSB は全てが同じ向きを指すものです。南部先生は右下方向に指した矢印群の一部を崩して、THANK YOU とお書きになりました。すなわち、SSB が感謝の気持ちで破れた (Broken) のでしょう。南部先生のウィットに富む絵だということが、今頃になって気付いた斎藤でした。